

## 京都駅周辺地域のまちづくり活動

龍谷大学門前町サークル 会員 ○ナレントヤ  
植柳まちづくりプロジェクトチーム 代表長 宇佐美直秀

### 1.活動方針・目的

本活動は、東西両本願寺門前町に「にぎわい」を取り戻すことを目標にして、地域の人たちにまちづくりへの関心をもってもらうとともに、広く世間に門前町の魅力を伝える活動を行っている。東西両本願寺門前町は、京都駅北側に立地しており、京都の玄関口として、今後の京都の発展を支える重要地点である。本サークル・チームは、1000年の都である京都が、大都市間競争に勝ち残り、今後も発展し続ける基礎づくりを目指している。

### 2.活動内容

#### ① 門前町の住民にまちづくりへの関心を高めてもらう活動

これまで分断されていた東西両本願寺門前町を一体的に捉えることを目標にして、広範囲の活動を目指している。子どもにまちづくりへの関心をもってもらい、子どもから大人へ関心が伝えられることを期待して、下京涉成小学校児童と門前町のまち歩き、それを絵にして絵画展の開催、その絵を組み込んだ伝統産業の製品に仕上げる活動。毎月16日早朝の清掃活動。仏具「リン」を応用した風鈴の制作・住民に寄贈、「おりんde風鈴祭り」の開催。

#### ② 門前町の魅力を世間にアピールする活動

仏具の「リン」をモチーフにしたマスコット「おりんちゃん」の制作・各地域でのイベントへの参加。毎月16日に手づくり市「門前町いちろく市」の開催。

「仏壇仏具のまち」のイメージが強い門前町を「三十六歌仙のまち」としてとらえ直し、新たなまちづくり活動を開始している。

### 3.他の活動団体の参考となる事例

門前町は、寺院への依存意識が高い地域であり、自発的に門前町の活性化を試みる風土が欠けている地域である。小学生児童との係わりを手掛かりとして、地域住民・事業者にまちづくりへの関心を高める工夫を試みている。新たなまちのイメージづくりを試みている。

### 4.今後の課題等

活動となる中心的メンバーが、大学生と現役の事業経営者である。学生は実質2年程度しか活動できない。現役の経営者は本業が中心であるため、計画通りには実際の活動が進まない。

第9回「関西元気な地域づくり発表会  
地域資源活用分科会



京都駅周辺地域のまちづくり活動

龍谷大学門前町サークル  
植柳まちづくりプロジェクトチーム

(報告者:ナレントヤ・福永美緒・田中志穂)

平成26年3月1日(土)  
大阪合同庁舎1号館 第1別館

RYUKOKU UNIVERSITY

1

## I 目的

- 東西両本願寺門前町に「にぎわい」を取り戻す  
現状:地域人口の減少、来街者の減少  
↓  
小学校の統廃合⇒生活範囲の広がり
- 京都が大都市間競争に勝ち残り、今後も発展し続ける基礎づくり  
東西両本願寺門前町は、京都駅北側に立地  
京都の玄関口:今後の京都の発展を支える重要地点
- 新しい京都観光の創造:一年中へ、観光地の拡散へ  
(現状:春と秋、東山と嵐山に集中)

RYUKOKU UNIVERSITY

2

## Ⅱ 対象範囲：京都駅北側一帯へ拡大



これまで：横線 東西：堀川通⇔東本願寺(新町通)  
南北：六条通⇔七条通



小学校が統廃合⇒生活範囲が拡大(特に、子ども)

昨年度より：斜線 東西：JR山陰線⇔鴨川  
南北：五条通⇔JR東海道線

RYUKOKU UNIVERSITY

3

## Ⅲ 門前町の特徴

- ①・東西両本願寺が最大の需要家である地域＝東西両本願寺と関係者を対象とした安定した事業(訪問販売・通信販売)⇒地元への関心が薄い
  - ・仏壇仏具事業者が多い⇒観光客に向かない
  - ・国道1号線と烏丸通の拡幅(戦時中)⇒東西両本願寺と門前町が遮断京都市の調査：東西両本願寺に年間300万人が来訪  
門前町の来街者数は不明
- ②・西本願寺は世界遺産＝文化財(但し、非公開)
  - ・伝統産業の「匠の技」＝実演・体験
  - ・京都駅から徒歩圏内

RYUKOKU UNIVERSITY

4



## IV 組織と沿革

- 植柳まちづくりプロジェクトチーム  
構成員：西本願寺門前町の事業者・住民  
龍谷大学の学生・教職員
- 龍谷大学門前町サークル  
龍谷大学のボランティアサークル
  
- 平成13年4月、活動開始
- 平成16年10月、西本願寺門前町のまちづくり
- 平成24年4月、活動範囲を拡大：東西両本願寺門前町へ

RYUKOKU UNIVERSITY

5

## V 活動内容(1)

：門前町の魅力を世間にアピールする活動

◎ 地域の埋もれた人的・物的資源の発掘・情報発信

- ┌ 門前町の魅力を世間に伝える
- └ 地域住民にまちづくりへの関心をもってもらう

- 西本願寺の文化財の紹介
- 非公開文化財見学と伝統産業の体験ツアーの開催
- 旅フェアに出典
- 毎月16日に手づくり市「門前町いちろく市」の開催
- 「リン」をモチーフにしたマスコット「おりんちゃん」の制作・各地域でのイベントへの参加。「おりんちゃん」グッズの制作・販売
- 仏壇仏具制作の技術を活かしながら「三十六歌仙のまち」として、新たなイメージ作り

RYUKOKU UNIVERSITY

6

## VI 活動内容(2)

: 地域住民にまちづくりへの関心をもってもらう活動

子どもにまちづくりへの関心をもってもらい、子どもから大人へ関心が伝えられることを期待

- 下京涉成小学校児童と門前町のまち歩き、それを絵にして絵画展の開催、その絵を組み込んだ伝統産業の製品に仕上げる活動
- 毎月16日早朝の清掃活動
- 12月20日、西本願寺「すす払い」(500年続く年末の大掃除): 住民に参加要請
- 仏具の「リン」を応用した風鈴の制作・住民に寄贈、「おりんde風鈴祭り」の開催
- 「おりんちゃん」の制作

- 「しんらんさんグルメ」と称して、門前町をPRするスイーツの新製品の開発販売
- 門前町の歴史と現状を紹介したマップの制作、まち歩きツアーの開催
- 門前町カレンダーの制作(古写真と現在の写真を比較して、門前町の変遷が分かるカレンダー)
- 門前町コンサートの開催
- 新たな門前町のイメージ作り: 「仏具のまち」⇒「三十六歌仙のまち」(西本願寺の国宝) ⇒⇒仏壇仏具製作技術の美術品へ応用: 可能性に気づいてもらう



## VI 今後の課題

- 平成21年4月、「植柳まちづくりプロジェクトチーム」(地元住民・事業者からなるまちづくり組織)が結成  
⇒連携のあり方、地元コミュニティとどのように係わり、活動を継続させるか
- 校区の拡大⇒東西各本願寺門前町と不一致⇒活動範囲の拡大へ
- 信教の自由との関係  
例: 絵画展が西本願寺聞法会館(ホテル)で開催できない
- 寺院経営と文化財の公開
- 仏具と工芸品
- 活動主体: 現役の事業者(多忙)と学生(実質2年間)









RYUKOKU UNIVERSITY

13

平成24年度の活動の詳細は、  
<http://www.ryukoku.ac.jp/shaken/huzoku/ryudai.pdf>  
をご覧ください。

連絡先

井口富夫

E-mail: [iguchi@econ.ryukoku.ac.jp](mailto:iguchi@econ.ryukoku.ac.jp)

電話:075-645-8416

RYUKOKU UNIVERSITY

14